

乳児のマスク使用はとても心配な事があります。

- ・乳児の呼吸器の空気の通り道は狭いので、マスクは呼吸しにくくさせ呼吸や心臓への負担になる。
気管をストローと考えて下さい。ストローは大人に比べるとずっと細いです。その上、ストローの先に何か(=マスク)が付いていると、他の子と同じようにジュースを飲むには、ものすごく頑張る必要があります。『疲れます』。
- ・マスクそのものや吐物による窒息のリスクが高まる。
一生懸命呼吸をして疲れ果て、呼吸が止まったり、吐いたりすることもあります。吐いたものが気管に詰まる事もあります。また、マスクで口をふさいでいます(=『呼吸停止』の危険あり)。気づくのが遅れると大変です。
- ・マスクによって熱がこもり熱中症のリスクが高まる。
肺は、汗と一緒に体温コントロールもしています。息を吐いて熱を逃がし、外の冷たい空気を吸い込み体温のバランスをとっています。真夏の暑い日などに、カラダの熱を逃がそうと息を吐いても、マスクがジャマになり上手に熱が逃げてくれません。気温が高い日などは、熱がカラダにタマリ、『熱中症』になるキケンもあります。
- ・顔色や口唇色(=唇の色)、表情の変化など、体調異変(=いつもと違った様子)への気づきが遅れる。
むかし、小児科の新人教育の際、“内科は日に日に容態(=病気の様子)が変化する。大きな子は時間単位で変化する。乳児(=1歳未満)や幼児は“後ろ向いたスキに変化する”と教えられました。『急変』が怖いです。

2歳未満の子どもにマスクを使用するのは止めましょう

赤字は、当院補足です。
石川こどもクリニック